㈳全高Ｐ連会報

社団法人全国高等学校PTA連合会（連絡先）〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町2-1(奥田ビル)TEL03-5835-5711 FAX03-5835-5757
発行人 高間専逸　URL http://www.zenkoupren.org/　e メール info@zenkoupren.org

すべては子どもたちのために
～共に語り合いながら、課題解決を目指そう～

社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会　会長　高間専逸

六月十九日、平成二十二年度総会が開催され、高間専逸会長を再選。同じく再選された相川順子、荻荘誠両副会長と共に二期目のスタートを切った。高間会長は、以下のように今年度の活動への意気込みを述べた。

会　長：髙間専逸（中央）北海道江別市出身。学生時代は駒大サッカー部で活躍。温厚な人柄で知られるが、子どもたちのためになることへの思いは強く、時には厳しい一面を見せることもある。
副会長：相川順子（右）青森県青森市出身。児童養護施設職員。熱意あふれる活動ぶりと母親らしい優しさと細やかさが魅力。
副会長：荻荘　誠（左）新潟県新潟市出身。いつも自然体でさわやか。何事にも誠実な姿に信頼が寄せられている。

今日、高校生をめぐる社会情勢はめまぐるしい変化と変動の時代が続いています。昨年は隔年で実施しておりますリクルート社との共同事業として、第四回「高校生と保護者の進路に関する意識調査」を実施し、進路に関する親と子のより良い在り方について研究を深めてまいりました。また、文部科学省の委託事業「子どもを取り巻く人間関係の回復と社会環境の充実」事業において「子どもたちの心とその背景」をテーマとして実施した全国調査の分析結果から、子どもを取り巻く人間関係が複雑化して、子どもたちのメンタルヘルスには多くの課題があることが分かってまいりました。そこで今年度は、「子どもたちのメンタルヘルスと学習意欲」を調査分析し、高校生の生活・意識を理解し、学校と保護者、ＰＴＡ組織と地域が協力して子どもたちのために支援していけるような提案をいたします。本年度は調査分析に終わることなく、会員の皆さまに各地域の現状にふさわしい活動の在り方を示してまいりたいと考えているところです。

全高Ｐ連は、地区連合会をはじめとして五十都道府県市高Ｐ連から成り立つ連合体で、高校生の健全育成や保護者自身の自己啓発に係わる地道な活動や意見、課題等を集約し、共有し、解決策を模索し、提言することの出来る発信型の団体であることを目標としています。そのために、全国大会や地区大会の開催、健全育成委員会等の各種委員会活動、会報の発行やホームページ公開等を行っています。また、国の教育施策動向を正確に知るとともに本連合会の意見を表明するために、文部科学省とも密接に連絡をとっています。目的は一つ、「子どもたちのために」。そのために、単位ＰＴＡ、都道府県市高Ｐ連、地区高Ｐ連、全高Ｐ連がそれぞれの役割をしっかりと果たしていくことが重要です。皆さまのご指導とご支援をいただけますようよろしくお願いします。

今号の主な内容

会長あいさつ　1頁
シリーズ青春白書　全国からの便り―輝く姿がここにある―
広島県立広島中学校・広島高等学校
校訓「高い知性・豊かな感性・強い意志」
～グローバル化時代において
活躍できる生徒の育成をめざして～　2頁
山形県立荒砥高等学校
「地域と連携し、地域を支える人材を育成する」　3頁
What's 全高Ｐ連　組織図・各委員会活動など　4～5頁
平成22年度総会報告　6頁
平成22年度役員・委員名簿　7頁
地区大会報告　7頁
北海道地区　7頁
東北地区・関東地区　8頁
東京地区・北信越地区　9頁
東海地区・近畿地区　10頁
中四国地区・九州地区　11頁
シリーズ視点「世界につながる子どもたち」　12頁

全高Ｐ連ＨＰでもご覧になれます。　ＵＲＬ：http://www.zenkoupren.org/

らの便り
にあるー」vol. 10
ひたすらに頑張る子どもたち。
をもって導く先生たち、
Ａの仲間の姿をお伝えします。

■広島県立広島中学校・広島高等学校

校訓「高い知性・豊かな感性・強い意志」
～グローバル化時代において活躍できる生徒の育成をめざして～

【教育方針等】

本校は、広島県としては初めての併設型中高一貫教育校として平成十六年四月に新設開校し、保護者・教職員が協力して、学校教育・家庭教育の充実に向けた取組を進めています。現在、中・高合わせて学級数三十、生徒数一一九四名の、最大規模の県立学校です。

六年間の計画的・継続的な教育活動により幅広く深い教養と高い知性を培い、グローバル化時代において活躍することのできる人材を育成することを教育方針とし、社会で貢献できる「全人的な力をもった人材の育成」を柱に教育活動が行われています。

【特色ある教育活動】

(1)ことばの教育の推進

中・高の六年間で「論理的な思考力・表現力」を身に付けるため、開校当時から「ことばの教育」に取り組んでおり、さらに中学校では「ことば科」を特設し、週二時間の授業を行っています。こうした取組の結果、平成二十一年度は全国中学校ディベート選手権では初出場で準優勝を果たすほか、広島県主催の「ことばの輝き」優秀作品コンクールで毎年最優秀賞を獲得するなど、数多くの場でその成果を発揮しています。

(2)寄宿舎の活用

寄宿舎入寮生は、夜間学習時間に「スクールサポーター」と呼ばれる広島大学大学院生の先生方からマンツーマンでの指導を受けるなど、意欲的に学習に取り組んでいます。また、寄宿舎を活用し、全校生徒を対象に短期入寮教育も行われています。特に第二学期に行われる短期入寮は、運動会での競技の練習を活動内容として、中・高生徒を縦割りにした異年齢集団で実施され、生徒の社会性の発達に役立っています。

異年齢集団による運動会の練習

(3)進路実現への取組

すべての生徒が高い目的意識をもち、進路希望を実現し、将来に向けて力強い一歩を踏み出していくため、レベルの高い授業の実施はもちろん、土曜日や夏季・冬季休業中に特別講座を行うなど、様々な取組を進めています。さらに高等学校では、「東大・京大プロジェクト」「広島大学等志望校別集会」などで過去の問題の解説などを行い意識の啓発をはかったり、年間四～五回以上の担任による個人面接に加えて授業担当者が面接を行ったりするなど、綿密な進路指導が実施されています。

高校３年生の激励集会

【ＰＴＡ活動】

(1)活発な活動

保護者の学校教育に対する関心は極めて高く、年一回のＰＴＡ総会の出席率は五割を超え、県内最大規模の体育館が一杯になるほか、年五回実施している参観日には教室に入れない保護者が出るほどです。また、ＰＴＡの生徒・厚生・研修・広報の四委員会での出席率も六割以上と高く、ＰＴＡ活動への参加も熱心です。

ＰＴＡ総会

これらの委員会活動のほかにも、教育条件の整備を目的として文化祭・運動会でバザーやＰＴＡ喫茶を行ったり、生徒・保護者・教職員が一緒に校内を清掃したりするなど、学校の教育活動への支援を積極的に行っています。

また、年度末に行われる学校経営計画等報告会には多くの保護者が参加し、学年別分科会で意見を出し合う等、学校評価にも保護者が積極的に参加しています。

さらに、生徒が県内全域から通学していることから、県内を五地区に分けてＰＴＡ地区委員会を設置し、地区ごとに懇談会や親睦会を開催して保護者と教職員、保護者相互の親睦を深めています。

(2)委員会の取組

委員会の活動では、生徒委員会の声がけにより保護者が登校時や下校時の交通指導を実施し、交通整理やあいさつ運動を展開するほか、交通標語を募集して優秀作品を表彰するとともに、最寄りの駅構内・地域・校内に掲示しています。また、町青少年育成連絡協議会で情報交換を行い、毎週金曜日には同協議会主催の町内巡視に参加し、ＪＲ駅や大型スーパー近くをパトロールしています。

厚生委員会では、中学校の給食や食堂での食事の様子を見学したり試食を行ったりするなどして生徒の生活の状況を把握し提言を行うほか、制服のリユース活動を行うなど、生徒の生活に密着した活動を行っています。

研修委員会では、年一回の講演会を企画・運営し、保護者自らがグローバル化時代に活躍できる子どもの育成にいかに関わるかなど、課題をもって取組を行っています。

広報委員会は年に三回、広報誌「グローバル」を発行しており、委員の熱心な取材や編集活動により新聞社のコンクールで二度入賞するなど、その内容のすばらしさが評価されています。

ＰＴＡによるリユース活動

「青春白書全国か一輝く姿がここ

未来を見つめ、夢を追い求め、その子どもたちを熱意そしてＰＴ

■山形県立荒砥高等学校

地域と連携し、地域を支える人材を育成する

【学校の概況】

創立六十二周年を迎える男女共学の全日制普通科高校です。白鷹町はフラワー長井線の終点で、かつて最上川の舟運で栄えた古典桜の里です。本校は、町に一つの高校であり、八千七百余名の卒業生は、主に地域の行政や産業界のリーダー、企業や農業の担い手として活躍しています。校訓は「克己復禮」です。

少子化に対応した県の計画に従い、この十年間で四学級から現在の二学級に入学定員が減少しています。しかし、小規模高校の良さを生かし、一人ひとりを認めて伸ばす教育を実践しています。また、地域と連携した教育は、本校の最大の特色であり、広い視野を持ちながら地域を支える人材の育成をめざしています。

【地域と連携したキャリア教育】

将来の進路に応じて、スポーツ・情報・福祉の三つのコース制を設けています。また、個に応じた手厚い指導を実現するため、多くの授業でティーム・ティーチングを実施しています。町が文部科学省の研究指定地域になったことを契機に、地域連携のキャリア教育が継続されています。そのため、町内事業所のご協力を得て、二年生全員が職場体験学習を毎年行っています。進路希望は、進学と就職が半々で、就職難だった昨年も達成率は一〇〇％でした。就職先は主に地元企業です。就職希望者に対するＰＴＡ役員による模擬面接も効果を上げています。

【地域ボランティア】

吹奏楽部による保育園での訪問演奏、除雪活動、福祉施設の清掃、絵本の読み聞かせ、鮎祭り・紅花祭りや公民館行事への協力など、多様なボランティアを行っています。

今年度から県の特色化推進事業として社会貢献活動のグレードアップに取組みます。これまでも生徒会やボランティアサークルが、地域の一員として社会貢献活動に積極的に取り組んできました。そして、地域の皆様との出会いや豊かな体験をとおして逞しく成長し、自信を深めてきました。今後は、企画力やコミュニケーション力を向上させ、地域活性化の核となる人材の育成が目標です。

【まなびサポーター】

昨年度から、魅力ある学校づくりを推進するため、「まなびサポーター」制度を設けました。学習支援ボランティアを十名の地域の方々にお願いしています。

授業の中で、郷土史、ビジネスマナー、伝統工芸、手話、簿記、建築、情報などのご指導をいただきます。生徒たちの地域理解が深まり、新鮮な学習意欲が喚起されています。何より、魅力ある学校づくりに、地域の皆様に参加していただけるようになり、感謝しています。

【子どもたちの頑張りを支えるＰＴＡ】

今年度は、東北の調査広報委員会、山形県の調査広報委員会、地区の会長校などの大役を務めさせていただきます。

本校ＰＴＡは、小規模校ながら学年部会の他に、文化部・体育部・健全育成部の三つの専門部が活発な活動を行っています。マナーアップ運動や列車指導では、挨拶や服装が年々立派になり喜んでいます。また、本校は学校行事が盛んで、生徒はその感動をとおして成長していきます。体育祭の準備や競技審判、文化祭の鍋合戦やキャンドルアートなど、ＰＴＡは行事でも重要な役割を果たしており、生徒の間近で感動をともにしています。今後も、より良い学校づくりをめざして懸命に頑張っている子どもたちや先生方を、しっかり支えていくＰＴＡでありたいと思います。

「全高Ｐ連って、どんな人たちが活動しているの？何をしているの？」会員の皆様からのそんな質問にお答えしたいと思います。全高Ｐ連は、各都道府県市高Ｐ連を通して各単位ＰＴＡの皆様とつながっています。全国50団体から上がってきた声に耳を傾け、社会の変化、そこから起こる問題点を見据え、子どもたちのために、よりよい環境を整え、健全育成・安全・進路の保障のために活動しています。

学校ＰＴＡ連合会

連会長・理事・監事
以上23名以下うち会長１名副会長２名専務理事・常務理事１名、監事は３名）

評議員会（団体より１名）

各種委員会

総務委員会

会長、副会長、専務・常務理事、各委員会委員長で構成。理事会および総会に諮る事項、他の委員会の所掌に属さないことについて話し合います。

健全育成委員会

・「子どもたちのメンタルヘルスと学習意欲」に関する事業
全国4000組の生徒・保護者アンケート調査を実施し分析します。その結果に基づいて５つの地区でシンポジウム（青森、鹿児島、新潟、埼玉、京都）を行います。各校ＰＴＡへの伝達・活用をお願いします。
・薬物乱用防止パンフレット「うちの子に限って」作成と啓発活動
10年間継続し高い評価をいただいているパンフレットを、高校生の保護者全員に配布します。ますます低年齢化・深刻化してきている薬物乱用の予防・啓発を推進します。
・各記事業の成果を報告書やサマリーとし、全校配布およびネット経由での活用を図ります。

進路対策委員会

・「高校生と保護者の進路に関する意識調査」を（株）リクルートと共同で一年おきに実施しています（平成21年度に第４回調査）。調査結果から、保護者と子どもの意識の差、保護者の子どもたちを見守る力の低下など、多くの課題が浮かび上がっています。今年度は、この結果が一人でも多くの保護者に伝わり現状の改善がなされるように、調査の活用促進を図ります。
・就職支援のための要請活動を、文部科学省、厚生労働省、都道府県市、経済団体等の関係機関に対して行っています。

調査広報委員会

・「全高Ｐ連会報」の企画・編集・発行。年３回（８月・12月・４月）。
８月発行号は、全国大会参加者全員に配布します。多くの会員の皆様に会報をご覧いただき全高Ｐ連の活動を周知していただきたいと思います。
・全国大会東京大会における「全国単位ＰＴＡ広報紙展示事業」の実施
・ＨＰの活用。月替わりで各都道府県市高Ｐ連から単位ＰＴＡの活動を紹介しています。また、活動について情報発信しています。ぜひ一度、アクセスしてみてください。

研修委員会

研修委員会の所掌事項の一項目は【全国大会等本会主催の研修活動の企画に関すること】です。全国大会は《全国高等学校ＰＴＡ会員が一堂に会し、青少年の健全育成の在り方について、熱く深くそれぞれの思いを語り合い、家庭・学校・地域社会が抱える現代的課題について研究討議を行い、その諸問題の解決の方途を求める》ことを目的として開催されるものです。本年度中には『全国大会の在り方、もち方についての申し送り事項』を成案として提出できるように、鋭意努力いたします。その他、今年度の東京大会成功に向けての最終調整、平成23年度北海道大会支援のための研究討議、平成24年度和歌山大会の特別第３分科会テーマ決定などを重点課題として活動します。

賠償責任補償制度運営委員会

この制度は、高校生が万が一加害者になった事故を補償する制度です。近年、特に自転車事故が多発、重大な事故も毎年のように起きており、大変大切な制度になっています。今年度は、改定（掛け金の引き上げ、改定時期など）に関する周知、移行期間の対応と、事故防止策についても検討を進めます。

What's 全高Ｐ連

関係諸団体

委嘱を受けた各種委員会

＊文部科学省
・中央教育審議会部会委員
　キャリア教育
　職業教育
・中央教育審議会生涯教育
　分科会委員
・大学入学者選抜方法の改善に関する協議
・国立大学附属高校の新たな活用方策等に関する検討会
・早寝早起きご飯運動会議
・子どもを見守り育てるネットワーク推進会議

＊総務省
インターネット上の違法・有害情報への対応に関する検討会

＊内閣府
・青少年インターネット環境の整備等に関する検討会
・違法・有害情報対策官民実務家ラウンドテーブル
・男女共同参画推進連携会議

＊大学入試センター
大学入試センター試験に関する懇談会への参加。

＊社会教育団体
日本ＰＴＡ全国協議会、全国国公立幼稚園ＰＴＡ協議会、日本私立小学校中学校高等学校保護者連合会はじめさまざまな社会教育団体と情報交換を行い、必要に応じた連携活動を行っています。

＊その他
・学校施設の在り方に関する調査研究、高等学校部会
・専修学校教育の振興方策等に関する調査研究協力者会議

全国高等

総　会―各都道府県市高Ｐ

理事会―理事および監事（理事は地区高Ｐ連より選出18名

賛助会員

所属各単位ＰＴＡ・会員

各都道府県市高等学校ＰＴＡ連合会

・北海道
・青森県　・岩手県　・秋田県　・宮城県　・山形県　・福島県
・茨城県　・栃木県　・群馬県　・埼玉県　・千葉県　・神奈川県　・山梨県
・東京都
・新潟県　・富山県　・石川県　・福井県　・長野県
・岐阜県　・静岡県　・愛知県　・三重県
・大阪府　・大阪市　・京都府　・京都市　・滋賀県　・奈良県　・和歌山県　・兵庫県　・神戸市
・鳥取県　・島根県　・山口県　・広島県　・岡山県　・徳島県　・香川県　・愛媛県　・高知県
・福岡県　・佐賀県　・長崎県　・熊本県　・大分県　・宮崎県　・鹿児島県　・沖縄県

地区高等学校ＰＴＡ連合会

北海道地区
東北地区
関東地区
東京地区
北信越地区
東海地区
近畿地区
中四国地区
九州地区

平成二十二年度 社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会第一回総会

平成二十二年度第一回通常総会が六月十九日（土）に、東京お茶の水にある東京ガーデンパレスにおいて開催されました。

今総会には来賓として、文部科学省生涯学習政策局神代浩社会教育課長、社団法人日本ＰＴＡ全国協議会会長相川敬氏、日本私立小学校中学校高等学校保護者連合会会長新延克己氏他のご出席をいただきました。

開会冒頭の高間会長の挨拶に引き続き、神代課長が祝辞を述べられ、その中で高校授業料無償化法案とＰＴＡ共済法案が国会で成立するまでのいきさつについてのお話がありました。

総会の前半では、第一号議案の平成二十一年度事業報告が審議され、賠償責任補償制度運営委員会から出された全高Ｐ連賠償責任補償制度の改訂に関することと、第二号議案の収支決算報告・監査報告が共に承認可決されました。

「全高Ｐ連賠償責任補償制度」は、高校生が万が一の加害事故を補償するという制度で、本連合会に加盟する高等学校のなかで一〇〇万人加入という高加入率を誇る制度ですが、ここ数年、高額賠償事故の増加によって保険金支払率が現行掛金を大幅に上回っているために、今回の改訂にあたり、平成二十三年四月から掛金を現行二〇〇円から三〇〇円にするというものです。（各都道府県市高Ｐ連と各高校校長及びＰＴＡにはご案内の文書をお届けすることになっています。）

第三号議案の沖縄大会の決算報告の承認可決に続いて第四号議案の平成二十二年度役員の選任が行われ、総会前半を終えて一時間の休憩に入りました。

総会の後半の第五号議案では、休憩中に開催された第一回理事会の人事案報告があり、これを可決承認、新会長に高間専逸理事が選任されました。

また副会長には相川順子理事、荻荘誠理事が選任されて三役が続投することになりました。また専務、常務理事他、評議員、各委員会人事等すべてが可決承認されて総会を終えました。

日本の高校生を元気にする

高校生新聞®　高校生スポーツ®

■1993年10月創刊　■タブロイド判 平均28頁　■毎月10日発行

「高校生新聞」は、高校生の活躍、分かりやすいニュース解説、生活アドバイス、勉強上達法などが満載。「高校生スポーツ」は、高校の運動部、各種大会を徹底取材し、スポーツする高校生に役立つアドバイスコラムも充実。高校生はもちろん、先生方、保護者、中学生も必読です。

高校生のための夢探し、自分探し 夢現塾
＆校内ステップアップ進学相談会
各界で活躍する講師の講演と、生徒が希望する大学・短大・専門学校の入試相談会を校内で無料開催。

首都圏で423の高校が利用
大学情報ステーション

株式会社スクールパートナーズグループ
高校生新聞社
〒194-0022 東京都町田市森野1-34-10 TEL.042-724-2750
FAX.042-724-2710　http://www.koukousei-sinbun.co.jp

北海道地区　胆振・日高大会

価値観の多様化時代　子供たちの主体性を育む　意欲的なＰＴＡ活動を

第六十回北海道高等学校ＰＴＡ連合会大会、胆振・日高大会が、六月十一日（金）、十二日（土）の両日、苫小牧市で開催された。苫小牧市は北海道の南西部に位置し、太平洋を臨み、周囲には、我が国初の野鳥の聖域「サンクチュアリ」やカルデラ湖の支笏湖があり、自然の生命力にあふれた観光都市でもある。

大会には、全道各地から千二百七十余名もの会員の参加を得て、「胆振・日高の原野を巡る爽やかな風の中で、心豊かでたくましく生きる子どもたちに、明るい未来が拓かれることを願い、語りあいましょう」の大会メッセージのもと、二日間にわたる大会が幕を開けた。

開会式で、高間会長は、二十三年度に開催される第六十一回全国高Ｐ連大会北海道大会について「オール北海道で臨めるよう、北海道の子どもたちや地域を前面に出して素晴らしい大会にしたい」と期待を述べた。また、社会環境がもたらす変化や課題にふれ、「親自身も子育てに自信を失いがちになっている。孤立して悩むのではなく、ともに悩みや苦しみを語り合い解決策を探るためにＰＴＡが活動していることを忘れてはいけない」と役割の重要性を強調した。

続いて表彰式に移り、単Ｐ役員、道高Ｐ連役員等を退任した三五三名の方々と一団体へ功績表彰並びに感謝状の贈呈などが行われ、開会式が滞りなく終了した。

第一日目の講演では、地元の苫小牧工業高校の卒業生で、『光る女』『光る大雪』などを執筆した作家の小檜山博氏が「教育とは何か」と題して講演を行った。自分の貧しかった生い立ちや体験談を踏まえ、教育とは人間の生き方を教えることが重要であり、生きる力として、他人の心を考える力や感情をコントロールする力が大切であると呼びかけた。「どうして学校に行くのか。なぜ勉強するのか」という根源的な問いに対し、氏は、「しっかりとした考えを持たなくてはならない」、「いいところに就職するため」という風潮に流されるのではなく、「ちゃんとした理想・夢を持って生きるために自分を磨いてゆく」ことが「教育」ではないのかと提言され、高校生を持つ親に大きな示唆を与えてくれた。

大会二日目は、市内の二高校に、四十二の分科会を設定し、地域・学校が異なる単Ｐ会員たちの活発な話し合いが行われ、保護者や先生の、子どもたちに寄せる熱い思いを感じる貴重な機会となり、会員同士が本音で語り合える、実りある交流となった。

平成22年度　社団法人全国高等学校ＰＴＡ連合会役員・委員名簿

役職名	氏名	地区名	県名	備考
理事・会長	高間　専逸	北海道	北海道	北海道地区会長
理事・副会長	相川　順子	東北	青森	健全育成委員会担当
理事・副会長	荻荘　誠	北信越	新潟	進路対策委員会担当
専務理事	三浦　啓亨	九州	大分	調査広報委員会担当
常務理事	工藤　重信	東北	岩手	東北地区会長、研修委員会担当
理事	榊原　綾子	北海道	北海道	調査広報委員会委員長
理事	松本　衆司	北海道	北海道	研修委員会委員長
理事	伊藤　均	東北	宮城	
理事	鈴木　定浩	関東	栃木	関東地区会長
理事	石井　博臣	関東	千葉	
理事	高橋多佳子	東京	東京	東京地区会長
理事	芝田　直樹	東京	東京	進路対策委員
理事	揚原　安麿	北信越	福井	北信越地区会長、健全育成委員会委員長
理事	木村まゆみ	北信越	石川	健全育成委員
理事	長坂　光司	東海	愛知	東海地区会長、調査広報委員
理事	日比野淳治	東海	岐阜	健全育成委員
理事	小川　治彦	近畿	滋賀	近畿地区会長
理事	伊藤　靖	近畿	兵庫	
理事	池内　勝彦	中四国	鳥取	中国・四国地区会長、進路対策委員長
理事	中河原圭司	中四国	広島	
理事	北川　武一	九州	沖縄	九州地区会長
理事	大澤　俊朗	九州	福岡	
理事	北沢　好一			事務局長、全国高等学校長協会
代表監事	岸　千明	関東	神奈川	退任理事
監事	山口　明	東京	東京	退任理事
監事	西原　英男	近畿	和歌山	
顧問	髙橋　正夫	九州	大分	前会長
相談役	藤井　久丈	北信越	富山	元会長
相談役	小栗　洋			全国高等学校長協会事務局長

総務委員会

職名	所属県名	氏名	職名	所属県名	氏名	職名	所属県名	氏名
委員長	大分	三浦　啓亨	副会長	新潟	荻荘　誠	委員	北海道	松本　衆司
会長	北海道	高間　専逸	委員	岩手	工藤　重信	委員	福井	揚原　安麿
副会長	青森	相川　順子	委員	北海道	榊原　綾子	委員	鳥取	池内　勝彦

進路対策委員会

委員長	鳥取	池内　勝彦	委員	秋田	菅原　広二	委員	三重	廣　耕太郎
担当役員	新潟	荻荘　誠	委員	群馬	宇井　正典	委員	大阪市	大西　久男
副委員長	長崎	岡田　康信	委員	東京	芝田　直樹			
委員	北海道	山本　富造	委員	富山	毛利　一朗			

研修委員会

委員長	北海道	松本　衆司	委員	山梨	佐藤　茂樹	委員	和歌山	西原　英男
担当役員	岩手	工藤　重信	委員	東京	青木真佐枝	委員	熊本	田上　忍
副委員長	山口	多々良健司	委員	長野	片山　康光			
委員	宮城	伊藤　均	委員	静岡	豊岡　武士			

健全育成委員会

委員長	福井	揚原　安麿	委員	東京	本間　正樹	委員	高知	尾田　安広
担当役員	青森	相川　順子	委員	石川	木村まゆみ	委員	鹿児島	遠矢　仁司
副委員長	北海道	孫竹　昌幸	委員	岐阜	日比野淳治			
委員	埼玉	松本　裕史	委員	京都府	卯瀧　俊明			

調査広報委員会

委員長	北海道	榊原　綾子	委員	山形	桂木　宣均	委員	新潟	齋藤　隆
担当役員	大分	三浦　啓亨	委員	茨城	白井　明夫	委員	奈良	榎堀　秀樹
副委員長	愛知	長坂　光司	委員	東京	近澤　五月	委員	徳島	岩佐　徳雄

賠償責任補償制度運営委員会

委員長(担当役員)	青森	相川　順子	委員	東京	髙橋多佳子	委員	奈良	榎堀　秀樹
委員	北海道	野瀬　政裕	委員	新潟	丸田　堯	委員	広島	中河原圭司
委員	埼玉	須田　保	委員	岐阜	石井　修一	委員	熊本	田中　和幸

一般社団法人移行準備委員会

委員長	新潟	荻荘　誠	委員	青森	相川　順子	委員	秋田	工藤　元博
会長	北海道	高間　専逸	専門委員	岩手	工藤　重信			

東北地区　盛岡大会

歩もう　この道　受け止めよう　この気魄
ー多様化する社会の中で、今求められているキャリアとはー

第五十九回東北地区高Ｐ連盛岡大会は、七月八日(木)～九日(金)みちのくの古都岩手県盛岡市において、東北六県より千八百名の参加者を得て開催された。

初日は、大会運営会議および研究協議委員会が開かれ、夕方にはホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングにおいて歓迎レセプションが行われた。工藤重信大会会長の挨拶に続き法貴敬県教育長の祝辞をいただき、鏡開き、乾杯のあと、なごやかな雰囲気の中、祝宴となった。「ミス・さんさ」により、世界一の太鼓パレードとしてギネスブックにも認定されている、「盛岡さんさ踊り」がはなやかにくりひろげられ、会場を魅了した。

大会二日目は盛岡市民ホールにおいて、盛岡第一高校放送委員会による宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の朗読で開幕となった。相川順子全国高Ｐ連副会長、工藤大会会長の挨拶と達増拓也県知事、谷藤裕明盛岡市長の祝辞に続き、表彰状・感謝状の贈呈と、広報紙コンクールの表彰が行われた。続く研究協議では各県から実践活動の発表がなされ、玉真之介岩手大学副学長と佐々木淳県教委産業教育担当課長より助言をいただいた。昼食時には北上翔南高校鬼剣舞部の演舞が披露された。

午後からは記念講演として、前国際日本文化研究センター所長山折哲雄先生をお迎えし、「親の背中、こどもの素顔」と題するお話をいただき、大きな示唆を与えられた。

大会の最後は盛岡第二高校箏曲部による演奏と不来方高校音楽部による合唱が披露された。会場全体が素晴らしい音楽の世界へといざなわれ、美しいハーモニーの余韻の中、東北地区盛岡大会は幕を閉じ、次年度開催地である宮城県での再会を楽しみに散会となった。

関東地区　神奈川大会

飛翔　学び　行動する　ＰＴＡ

開港一五〇周年を迎えた国際都市横浜で、第五十六回、関東地区高等学校ＰＴＡ連合会大会神奈川大会が、七月八日(木)・九日(金)の両日、関東七県から、約五〇〇〇名の参加者を迎え、盛大に開催されました。

大会一日目の全体会は、パシフィコ横浜国立大ホールで行われ、開会式では、実行委員長である岸千明氏が、「子どもたちのために、家庭・学校・地域が一体となり教育環境を整える必要がある。そのために、ＰＴＡは全力で応援したい。」と、あいさつしました。

また、神奈川県知事松沢成文氏をはじめ、来賓の皆さまから祝辞をいただいた後、ＰＴＡ活動に対する功労者表彰、大会宣言文の発表と、滞りなく進行し、予定通り終了することができました。

その後、脚本家の山田太一先生による、「出会った人々を糸口に」と題した記念講演では、五十余年にわたる、映画やテレビ、小説の世界で生きてきた経験談。その中で、出会った人々の中で心を打たれたこと、教えられたこと、感じたこと、考えたことを踏まえての人間関係づくりをお話され、子どもの教育において、親は先生とは違うこと、よって、教育論より人生論を話していくことが大切であると、心を打つすばらしい講演をいただき、参加者を魅了しておりました。

大会二日目は分科会となり、横浜市内六会場において、各県代表による取組発表や、識者によるパネルディスカッション等、活発な議論が行われ、大会は幕を閉じました。

時代の変化により、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し、ＰＴＡ、あるいは親として、子どもや学校にどう接し、関わっていくかを考えさせられる有意義な大会となりました。

東京地区　東京大会

未来を創るキャリア教育と子どもと地域を育むＰＴＡ

七月十日、都立日比谷高校に隣接する星陵会館を会場として第二十二回東京地区大会を開催しました。

茫漠とし捉えにくく、学校現場においてもさまざまな課題に直面しているように思われるキャリア教育について、保護者として、またＰＴＡとしての視点の転換と取り組むべき課題への気づきが必要ではないかと考えつつ準備を進めました。

基調講演では、「キャリア教育の心理学」などを著されている下村英雄先生に、キャリア教育の必要性、また、家庭でのキャリア教育の重要性についてご説明いただきました。また、パネルディスカッションでは、川田孝一先生にコーディネーターを、また下村先生にアドバイスをいただきながら、日比谷高校や久留米西高校のキャリア教育の取り組み事例紹介、保護者の体験、二十一年度に実施した「キャリア教育に関するアンケート」の結果なども踏まえながら、学校、家庭、地域が連携したキャリア教育のあり方を考える貴重な機会となりました。

特にこのテーマは、第六十回全国高等学校ＰＴＡ連合会大会東京大会を通して全国の皆様で取り組む課題として提案しましたが、東京都ではキャリア教育を三年間取り上げてきたので、今回の地区大会はその集大成とすべく位置づけたものでした。

北信越地区　福井大会

親自身がわが身を顧み、子どもと共に自分の「人間力」磨きから始めよう

平成二十二年度北信越地区高等学校ＰＴＡ連合会研究大会福井大会は、梅雨の時期にもかかわらず天候に恵まれ七月九日（金）・十日（土）の両日、北信越五県から約一三〇〇名の参加を得て、福井市のフェニックスプラザを中心に開催された。

開会式では、川上賢正北信越地区高Ｐ連会長が、「北信越各地から一堂に会して教育諸問題について語り合うことはきわめて意義深い。福井らしい福井ならではの大会にしたい。」と、高間専逸全国高Ｐ連会長が、「この時期全国九地区で大会を開催している。活発な意見交換を行い、積極的に論議を深めて欲しい。」と挨拶を行った。次いで北信越地区の高Ｐ連活動で功労のあった三五名に表彰状が渡された。広部正紘県教育長、東村新一福井市長の祝辞があって開会式は終了した。

歓迎アトラクションでは、福井商業高校チアリーダー部ＪＥＴＳのメンバーが日ごろの練習の成果を披露し、満場の参加者から喝采を浴びた。

フェニックスプラザ等三会場で行われた四つの分科会（高校教育とＰＴＡ、進路指導とＰＴＡ、生徒指導とＰＴＡ、家庭教育とＰＴＡ）では、研究発表形式で、五県二十校から実践例をもとに素晴らしい発表がなされ、どの分科会の参加者も熱心に聞き入っていた。

今回初めて「生徒どうしによる人間力育成」というテーマで試みた特別分科会では、学校で実践している事例が紹介された後、パネルディスカッションが行われた。各パネリストによる運営上の様々な苦労や課題が述べられ、巧みなコーディネーターの進行で素晴らしいパネルディスカッションとなった。

二日目は主会場のフェニックスプラザで、九時から福井県知事西川一誠氏による「これからの新しい教育、福井の教育～人間力育成って、何だ？～」と題する記念講演と、三谷宏治氏から特別分科会報告が行われた。その後、三谷氏がコーディネーターを務め、西川知事ら四人のパネリストによるトークを行い、身近な話題やホットな見解が披露され、多くの会員が熱心に聞き入っていた。

次いで閉会式に移り、大会宣言文を採択し、次年度開催地の石川県高Ｐ連代表の挨拶後、川上会長の閉会の挨拶で、二日間にわたり開催された北信越地区研究大会は成功裏に幕を閉じた。

東海地区　愛知大会

キャリア教育とＰＴＡの役割

平成二十二年度東海地区高等学校ＰＴＡ連合会「愛知大会」が去る六月十八日（金）に名古屋市公会堂大ホールを会場として、東海四県から約一六〇〇人の役員・理事・会員の皆様の参加を得て盛大に開催されました。

開会式では東海高Ｐ連の長坂光司会長と全高Ｐ連の相川順子副会長の挨拶、続いて今井秀明愛知県教育長、山田賢一愛知県公立高等学校長会長から祝辞をいただきました。

講演はカレーハウスCoCo壱番屋創業者、宗次徳二氏による「仕事に人生を捧げろ～青少年に職業意識をどう伝えるか～」です。全国チェーンを展開して成功した秘訣は、いつも笑顔で接し、店をきれいに掃除することなど、お客さんが喜ぶことを第一に考えることを心掛けた。望ましい職業観を育成するうえで参考になりました。また、最近の経営者が、ほどほどに仕事をして趣味に走る傾向を危惧し、仕事を趣味として仕事に人生を捧げることを提唱されました。

研究協議題Ⅰは「学校教育とＰＴＡ」で愛知県立豊橋商業高等学校原田和宣ＰＴＡ会長が、「学校からの発信と親の思いを繋ぐＰＴＡ活動～学校の良きパートナーとして～」を発表しました。学校の文化祭への出店、国際交流事業でのホームステイへの協力など例年実施するほか、部活動において父母会を結成し部活動の支援、部活動についての情報交換や悩みの話し合いが行われています。こうして学校との連携を深め、パートナーとしての役割を果たそうとしています。

研究協議題Ⅱは「進路指導とＰＴＡ」で、三重県立桑名高等学校種村栄二ＰＴＡ会長が、「桑名高校の現況に即した支援活動としての取組み」を発表しました。有数の進学校であることから、生徒の進路選択に保護者も関心をもつため、ＰＴＡで大学見学を企画し、東海地区を中心に研修旅行を例年実施しています。見学先の大学で、大学の現状についての説明やガイダンスを受けています。このほか、ＰＴＡ講演会を実施し、地域関係者の参加も得て、地域との連携を深めているとのこと。

近畿地区　大阪大会

学校力を高め、人間力を育む　大きな輪を

～学校・家庭・地域が心をつなぎ　子どもたちの志や夢を育てよう～

第三十六回近畿地区高等学校ＰＴＡ連合会大会は、七月三日(土)四日(日)水の都、大阪の地に近畿各府県市より約三一〇〇余名の参加を得て盛大に開催いたしました。

大会前日は、ホテルアウィーナ大阪にて総会とレセプションを開催しました。

総会では、各種案件が承認され、小川滋賀県会長が新会長に選任されました。レセプションでは、府市の教育員会・府市の校長会長をはじめとする多くの来賓をお迎えするとともに、大阪市立中央高校の勇ましい太鼓演奏のステージが交流会に華を添えていただきました。

七月四日、大阪国際会議場にて、大阪府立寝屋川高校吹奏楽部による歓迎演奏で参加者を迎え、山下実行委員長の開会のことばで式典が開始され、綛山大阪府副知事、平松大阪市長からご祝辞を頂戴し、各種表彰等がおこなわれました。

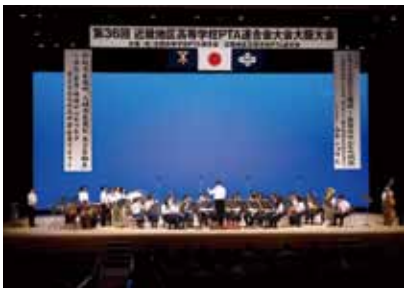
式典後は、大阪府立夕陽丘高校生の生熊さんのピアノ独奏、東大阪市立高校吹奏楽部のマーチング演奏で場を盛りあげていただきました。そして、レモンさんの愛称のラジオＤＪ山本シュウさんの迫力ある記念講演は、非常に評判がよく、保護者に多くの活力と勇気をいただきました。

午後からは各分科会に分かれ、第１～３分科会においては、パワーポイントを活用したそれぞれユニークな実践発表が行われ、活発な意見交換がなされ、盛り上がりました。

特別分科会は、アトラクションと基調講演でした。

前半のアトラクションでは、先生方で結成された「愛燦燦」のソーランを、大阪府立山田高校の華麗なヒップホップの踊りと優雅創作舞踊を大手前高校の楽しい「バケーション」の踊りを大阪府立今宮高校の迫力満点の「ソーラン・青春踊踊（お）りなす万華鏡！」を次々に披露されました。最後に保護者を中心に生徒、先生が一体となって、大阪名物「河内音頭」に合わして踊りが繰り広げられました。

後半の基調講演では、常磐会学園大学教授佐谷先生のお話は、高校の教鞭時代カウンセリングの実践に裏打ちされた内容を淡々と話されておられましたが、客席からは笑いが絶えないなごやかな講演になり、好評でした。



中四国地区　鳥取大会

手と手つ　とりあって
～ともに学び　ともに未来へ～

第五十二回中国・四国地区高等学校ＰＴＡ連合会大会鳥取大会は七月九日（金）、鳥取市に中・四国各県より一五〇〇余名の参加を得て盛大に開催された。

開会式の挨拶で、荻荘全高Ｐ連副会長は全高Ｐ連の活動の実態について説明した。一般会員にはともすると分かりにくくなっている全高Ｐ連の活動の必要性、大切さを参加会員に知っていただくことができる挨拶であった。

研究協議では「新たなる旅立ち」～大津緑陽高校開校への軌跡～と題して、田村健次ＰＴＡ会長（山口県）が普通科高校、水産高校、農業高校が統合して、時代に対応する新設高校設立へ学校・行政そしてＰＴＡがどのように関わっていったかについて発表した。また「今、保護者としてするべき事は?」～もっと地域に出向いてみよう～と題して奥田竜三ＰＴＡ会長（広島県）がＰＴＡが生徒とともに地域の方々と積極的にふれあうことをとおして、人間力を育てる教育を地域から授かることができたことについて発表した。「キャリア教育とＰＴＡ」～今、私たち保護者にできること～と題して発表した新宮美津代ＰＴＡ会長（鳥取県）は子どもたちの進路を考えるなかにおいて、生徒たちのコミュニケーション能力の不十分さに気付き、自分たちにできることについて取り組んでいくと、子どもたちもそれに反応してくれることが分かってきたのでこれをさらに発展したいと発表した。

次に開催県である鳥取県３高校の「高校生による発表」太鼓の演奏、新体操、郷土芸能を披露し、鳥取県の子どもたちのはつらつとした姿を参加者に見てもらうことができた。

講演では、地元出身のマルタ氏（サックス奏者）に「音楽がつなぐ親子の絆、いい関係、勇気と希望」と題して講演と演奏をしていただいた。音楽家になる夢を果たすために自分の歩んだ道を振り返り、保護者にどのように子どもに関わってやって欲しいとのメッセージが送られた。また話の合間、合間にサックスの演奏を入れながらのお話で一流奏者の講演と演奏が同時に聴けるという素晴らしい講演となった。

九州地区　佐賀大会

響け心に　親の思い　子の願い
～夢見て一歩　信じて一歩　確かな明日へ～

記念講演講師
尾木直樹　氏

第五十四回九州地区高等学校ＰＴＡ連合会大会がばい響け佐賀大会が、六月十七日（木）・十八日（金）の両日、佐賀市で開催された。

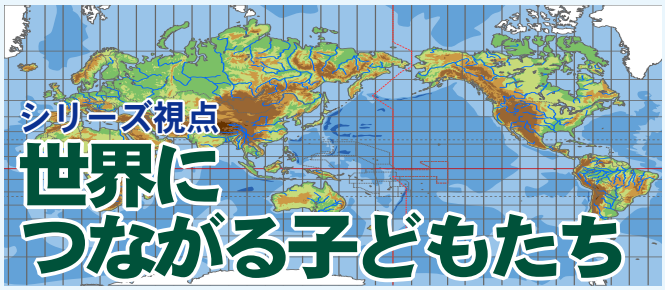
第一日は、理事会・総会が開かれ、平成二十一年度の事業報告・決算報告、平成二十二年度の事業計画並びに予算案審議、そして役員改選が行われた。

第二日は、宮崎県連合会の会員は、口蹄疫の被害拡散防止のため大会参加を自粛され、八名の参加となり、総勢二千九百名の参加者となった。会場三カ所に「がんばれ！宮崎」の気持ちを込めた募金箱を設置し、会員の皆様に支援をお願いした。

午前中の分科会では、第一分科会「青少年の健全育成とＰＴＡ活動」、第二分科会「進路指導とＰＴＡ活動」のテーマのもとに事例発表があり、質疑応答・意見交換が活発に繰り広げられ、熱気に溢れた。第三分科会では、「キャリア教育とＰＴＡ」のテーマのもとに、基調講演の後、パネルディスカッションが行われた。フロアーから次々と質問が出され、大いに盛り上がった。昼食時にはアトラクションとして佐賀商業高校吹奏楽部の演奏、伊万里農林高校の「至誠竜神」太鼓部の演舞が披露され、大変好評であった。

開会式では、小出九高Ｐ連会長の挨拶の後、個人・団体及び広報紙コンクールの表彰、感謝状の贈呈が行われた。そして荻荘全高Ｐ連副会長の挨拶、古川佐賀県知事の祝辞をいただいた。全体会では、分科会報告、九高Ｐ連活動報告があり、最後に大会宣言決議文を採択して終了した。記念講演では、教育評論家の尾木直樹氏に「子どもの危機をどう見るか」の演題でご講演いただいたが、尾木先生の柔らかい口調の講演ぶりに会場は大いに盛り上がり、記念講演の講師として、尾木先生にお願いしたことに間違いがなかったことを確信した。閉会式では、次期開催県の沖縄県連に九高Ｐ連旗を引き継ぎ、大会の全日程を終了した。

大会を通して、子育ての原点は「家庭」であることを再確認するとともに、響きあうことによって、今大会が「記憶に残る」大会になることを願っている。



サッカーワールドカップ２０１０、世界の大舞台で活躍する日本の若き力をみた。今、子どもたちの意欲や学力など様々な問題点が指摘される一方で、言葉や生活習慣など様々な違いを越えて、世界の中で国際人として活躍する若者も確実に増えている。彼らに続く高校生が育っている。世界を心で感じ交流を深める子どもたち。いつの日か、日本が今抱えている国際的な問題を、この子どもたちが新しい力で解決してくれるに違いない。

平成二十一年度 第三回北方四島交流訪問を終えて

北海道根室西高等学校
教諭　佐々木　伸

昨年八月六日から九日の間、北方四島交流訪問団の一員として本校生徒二名と共に国後島へ行く機会をいただきました。当交流訪問は別名を「ビザなし訪問」と言われ、全道の中高校生や教育関係者が北方四島の住民と交流を目的として、平成四年から行われています。

さて、生徒は初めて訪れた国後島でさまざまな経験をすることができました。中でも、各家庭を訪問するホームビジットでは、伝統料理であるボルシチや水餃子に似たペリメニなどの食事をご馳走になったり、生活習慣をはじめ島民の方の暮らしぶりに直接触れたりと、とてもたくさんの発見があり、わずか二時間という限られた時間ではありましたが、有意義に過ごすことができました。

また、地元の中高校生とのサッカーゲームでは、両者互角の戦いで白熱したプレーが繰り広げられました。この盛り上がりを聞きつけた近隣住民の方も大勢応援に駆けつけ、思いもかけない交歓をすることができました。

そして、国後島での全日程を終えて島から出港する時、多くの受け入れ家庭が港まで見送りに来てくれました。これには、生徒はもとより私を含めて多くの参加者が感激していました。中には、お互い涙を流して別れを惜しむ姿も見られました。

たとえ、言葉は通じなくても島民の方々と気持ちを通わすことができ、生徒にとっても私にとっても大変貴重な体験となりました。

この交流訪問を通じて得たことは、たとえ、言葉は通じなくても島民の方々と気持ちを通わすことができるということに尽きます。それは、帰航前の別れの出来事が何よりの証です。

北方領土については、戦後六十年以上抱えている大変難しい問題はありますが、このような交流が非常に大切であると再認識することができました。「チャンスがあれば、毎日間近に北方四島を見ている他の生徒たちとともに、ぜひ参加をしたい。」と強く感じさせる有意義な交流訪問でした。

YES for ESD 2010 に参加して

奈良女子大学附属中等教育学校
国際交流担当　前田　哲宏

私の勤務する奈良女子大学附属中等教育学校は、ユネスコ・スクールに登録されている。三年前にアジア三カ国（韓国、タイ、フィリピン）のユネスコ・スクール五校とパートナーシップを結び、高校生による国際会議を年一回開催することで合意し、準備を進めてきた。この高校生による国際会議、YES for ESD (Youth and Educators' Summit for Education for Sustainable Development) では、ユネスコが提唱するESD (Education for Sustainable Development「持続発展教育」) の理念の下、テーマを設定し、そのテーマに沿って高校生がプレゼンテーションやディスカッションを行いながら交流を深める。第一回目の今回は、City College of Calapan (Calapan City, the Philippines) がホスト校となり、カラパン市（フィリピン）で六月二十三日～六月二十七日の五日間開催された。ホスト校の生徒代表六名に加え、韓国から Daejon Noeun High School の代表五名、本校から高校二年生六名が代表として参加し、「文化の多様性」、「子供の権利」をテーマにそれぞれプレゼンテーションとディスカッションを行った。

国際会議は英語で行われることもあり、約半年をかけて本校代表の六名は入念な準備をしてきた。本番では他校の生徒たちの英語力に多少は驚きながらも、積極的にディスカッションに参加し、設定されたテーマに関した自分の考えや日本の現状など報告することができた。

今回のように未来を担う同じアジア地域の若者が集い、全員にとって外国語（第二言語）である英語で交流をし、よりよい未来を築くために同じ目線で議論できたことは大変意味のあることである。また、同じアジア地域に住んでいながら文化や考え方、物の見方も大きく異なることに生徒たちが気づくことができたのも大きい。

今後、ここで得た事、議論した事をできるだけたくさんの人たちに向け発信し、一人でも多くの「地球市民（グローバル・シチズン）」を育てていくことが国際交流に関わる教員としての使命だと感じている。